

## 2022年度第2四半期決算 会社説明会における主な質疑応答

### 〔三隅2号機稼働後の電力需給バランス〕

Q. 高圧・特別高圧の標準料金メニューの見直しにあたり新たに設定した市場価格調整額でカバーされるのは、FIT制度（再生可能エネルギーの固定価格買取制度）に基づく再エネ買取費用の変動のみと理解したが、三隅2号機稼働後は供給余力が生まれることから、市場調達に係るリスクはFIT分のみヘッジすれば十分ということか。

A. 三隅2号機の稼働による供給力強化で市場調達の割合を低減できると考えており、今後の市場や需給の動向にも左右されるが、市場価格変動に対するリスクは低減できる見込み。

### 〔財務体質改善と株主還元のバランス〕

Q. 電気料金の値上げ幅を見ると相当程度収益が出ると思うが、財務体質改善と株主還元については、どのようなスピード感で、どのように両立させながら進めていく考えか。

A. 今後の配当水準について現時点で決まったものではなく、まずは電気料金改定への対応を確実に進めるとともに、三隅2号機の活用、さらに収支改善のインパクトが大きい島根2号機の再稼働に向けて、2023年度中のできるだけ早期に安全対策工事を完了させることで、2023年度以降の収益回復に繋げていきたい。一方でウクライナ情勢は引き続き続くという前提で、2022年度と同様の緊張感を持って事業運営にあたっていく必要があると認識している。

### 〔事業リスク〕

Q. 電気料金値上げ、島根2、3号機の稼働を実現した後は、2021～2022年度のような燃料・為替・電力取引市場の価格変動リスクに対して手当てができると考えているのか、引き続きリスクが高い（事業そのものが高リスクである）と考えているのか。上記が実現した後のリスクをどう見ているか。

A. リスクは常にあると考えている。例えば、島根2号機が無事再稼働したとしても、司法リスクがあることは、他社事例でも明らかである。燃料価格変動リスクに対して、月次でリスク量のモニタリングを始めるなど、起こった時に何をするのかではなく、不測の事態は常に考えておく必要があるというスタンスで臨んでいる。

### 〔フリー・キャッシュ・フロー〕

Q. FCF（フリー・キャッシュ・フロー）は7年連続マイナス、当年度もマイナスと史料。島根2号機の再稼働で改善傾向になると思うが、島根3号機や成長事業に係る投資CFはどうか。今後、FCFをプラスにもっていききたいのか、必要な投資は行ってFCFはマイナスのままでもよいと考えているのか、方向性はどうか。

A. 経営ビジョンにおいて、2030年度までの10年間でキャッシュフローの均衡を図ることを、キャッシュ配分の基本としている。FCFは、大型電源投資が続く当面はマイナスが続き、島根3号機の稼働後に反転する計画。足元で収支は非常に厳しい状況が続いており、電気料金値上げにより収入と費用のリバランスを図り、ビジョンの軌道から外れた状態を元に戻したい。成長投資については取捨選択しながら続けており、FCFが反転すれば本格的に投資できるようになる。必要な投資を実施しつつ、足元の財務状況を勘案し、2030年あるいはその先を見越して取り組んでいきたい。

※内容につきましては、ご理解いただきやすいように加除・修正しております。

以 上